

耐久高等学校

実施日時	平成31年 3月14日(木) 9:00~11:30
参加者	1年生生徒 160名 計 160名
実施内容	下記詳細参照

実施内容

湯浅広川消防組合および和歌山県総合防災課の協力のもと、下記の5種目の防災実技訓練を実施し、技能を高めた。

- 1 ロープワーク
- 2 救助袋による降下訓練
- 3 起震車による体験
- 4 簡易担架による搬送
- 5 煙体験

※各種目1クラスごと約30分とした、訓練終了後、消防組合から講評を頂いた。

その後、HR教室にて「防災スクールを体験して」感想文を書く。

主なプログラム

- | (実施日) | (内容) |
|----------|----------------------------------|
| 7/17(火) | 地震避難訓練(全学年)…⑤ |
| 11/1(木) | 緊急地震速報によるシェイクアウト訓練・地震避難訓練(全学年)…④ |
| 11/11(日) | 湯浅町津波避難訓練(近隣住民当日クラブ活動実施の生徒・顧問)…③ |
| 3/14(木) | 耐久高校防災スクール(防災実技訓練)(1年生)…① |
| 3/14(木) | 救急救命講習…② |

①耐久高校防災スクール

災害時、自らの身の安全確保や、学校や地域に

おける共助の担い手として、積極的に行動できる高校生を育成することを目標に、湯浅広川消防組合および和歌山県総合防災課の協力のもと、耐久高等学校防災スクールを実施した。今年度の訓練は、ロープワーク、救助袋による降下訓練、起震車による体験、簡易担架搬送訓練、煙体験をクラス別に行った。実技訓練終了後、消防組合からの講評を頂いた。その後、各HR教室にて感想文を書いた。本防災実技訓練は、本校1年生生徒を対象に、従来より実施している訓練である。

②救急救命講習

教職員対象(43名)の湯浅広川消防組合(講師5名)による救急救命講習会。意識不明および心肺停止者に対する救急救命法(胸骨圧迫法・AEDの使用)を体験学習した。

③湯浅町津波避難訓練

本校は、湯浅町の第一次津波避難場所に指定されている。11月11日(日)午前9時、湯浅町内一斉津波避難訓練が実施された。町内一斉避難警報(サイレン及び放送)とともに近隣の住民が本校に駆けつけ、当日実施クラブ生徒が住民とともに1号館屋上に避難した。湯浅広川消防組合の巡回・広報・避難誘導のもと、近隣住民90名、クラブ生徒100名、教職員10名、計200名が津波避難訓練に参加した。

④緊急地震速報によるシェイクアウト訓練・地震津波避難訓練

この取り組みは、11月5日が世界津波の日

制定された（本校創設者の一人である濱口梧陵翁の偉業「稲むらの火」にちなんだ）ことから、緊急地震速報の受信状況の確認及び全校生徒が、机の下へ入り身を守る訓練を行った。その後、校舎倒壊なしの設定で校舎上層階への避難訓練を行う。最後に、HR 教室にて「世界津波の日」リーフレットを用いた学習を行った。

⑤地震避難訓練（全学年）

地震発生を想定した避難訓練。全校生徒を避難経路にしたがって正面玄関前に集合させる。その後、大津波発生時の指定避難場所である校外の高台に避難する。

参加者感想文

1年5組

今まで地震体験車は体験したことがあったが、救助袋による降下訓練は今日しか多分できないことだろうと思い、懸命にやった。私が一番印象に残っているのは、ロープワークだ。いざという時に持ち運びするのに便利だと思った。本結び、巻き結び等、三種類の結び方ができるようになったので用途に応じて使い分け実践できるようにしたい。いつ起こるか予測できない地震や災害に備えて、もう一度身の回りを見て、危険なところがないか確認しようと思う。また、もし災害が起きてしまった時には、先ず自分の身の安全を守り、冷静かつ迅速な避難や行動ができるよう常に意識しようと思う。十分が助ける側に回れる場合には、今日の担架での搬送方法を思い出し、周りの人と協力していこうと思う。

1年5組

今日、消防士の方々に煙やロープ、人の運び方などを教えてもらい、救助袋による降下訓練や地震体験などをしました。今日の体験で思ったこと

は、とても簡単で自分たち高校生でも人の力になれるそうだという事です。実際災害が起こった時、近くに大人が居るとは限らないし、人助けのための人数が少ないかもしれません。もし、私がある状況にあった時、今日学んだことを生かして少しでも多くの人を助けたいと思います。今日教えてもらったことが実際役に立つかどうかは自分次第だと思っています。率先して人の力になれるよう行動したいです。地震はいつどこで起こるかわかりません。そのために今日学んだことや体験したことを家族に伝えたり、避難場所を確認し合ったり、防災グッズをもう一度見直したりして、自分の命は自分で守らなければならないという意識を持ちたいと思います。災害について改めて見直せた貴重な体験でした。

成果と課題

目指す生徒像として、

- ①災害に対する危機意識を持ち、防災・減災に主体的に取り組む。
- ②災害発生時に自分の命を守るとともに、直後の救助活動に取り組む。
- ③災害後の活動に積極的に取り組む。

以上の3つを柱にして取り組んでいる。計画的に防災教育が行われ、しかも高校生活の比較的早い時期に実施していることが成果としてあげられる。今後、どのように地域との連携を図っていけるかを検討し、行動に移せる体制づくりが課題である。

耐久高等学校防災スクールの様子

